

<p>団体名</p>	<p>一般社団法人もも</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>15歳からの学習支援教室と文化芸術ゼミ</p>	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>	
<p>●望ましい社会状況（ビジョン）</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは、生まれ育つ環境に左右されず自分の未来に希望が持てる社会です。その社会は、経済的理由や家族の病気障害など生まれ育つ背景や本人の持つ病気や障害、不登校などの生きづらさによって、未来に希望を持つことが難しくなることがないような状態です。子ども・若者がそれぞれの自立に向けて、自分らしくあれる道を選択ができる社会を目指します。</p>		<p>学習会の様子</p>	
<p>●団体の社会的役割（ミッション）</p>	<p>当団体の社会的役割（ミッション）は、「子ども若者が安心して力を発揮できる地域のプラットフォームをつくる」ことです。子ども若者とともに自分らしくいられる学びをつくることに取り組んでいる。具体的には、総合的な学びの場（5教科・文化芸術・探究活動）・家庭的なソーシャルワークハウス（相談支援・一時宿泊施設）・地域住民と若者で運営する食事の場（若者のチャレンジの場・多世代交流）が地域にあり、誰もが社会資源にアクセスできる状態をつくります。</p>		<p>1回の参加人数は3～6名です。大学生や社会人スタッフと学校の課題、試験、受験に向けて勉強しています。</p>	
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>人材育成：持続性を高めるために各事業にリーダーの役割を担う人が2名いること。また、継続的に参画する人が増えること。 リソースの確保：居場所活動・子ども食堂・学習教室・キャリア教育・サークル活動など多機能な場をいくつか持ち、子ども若者が状況に合わせ活用できるようになること。 活動資金：助成金、寄付、賛助会員費などをいただきながら、活動時間やサービスの充実を図る。 ナレッジ：各種関係機関や地域住民と協力しながら、子ども若者の自己実現を支援できていること。</p>			
<p>■活動報告</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>		
<p>2021年9月～2022年8月に合計41回の学習会と食事支援を開きました。参加者数は延べ人数162名でした。不登校状態にある中学生や通信制高校に通う高校生、高校を中退している若年無業の若者などが参加しました。不登校や不登校傾向にある中学生は学校の課題やテスト勉強に取り組みました。通信制高校生はレポートやテスト勉強に取り組みました。高卒認定試験をめざす若者は過去問題やワークに取り組みました。学習カウンセリングとして、勉強や進路に関する相談もおこないました。文化芸術ゼミは11回開催し、参加者数は延べ人数92名となりました。様々なテーマに「出会う」こと・作品づくりを通して自分を「表現する」ことを目的としたワークショップやゼミを実施しました。保護者会は2回開催し延べ10名の参加がありました。スタッフ研修も4回開催し延べ24名が参加しました。</p>		<p>①困難な状況にある子ども若者の呼び込み：不登校状況や経済的困窮、ヤングケアラー・病気・障害をもつ子ども若者、家庭内不和など多様な背景に育つ子どもたちが来ました。スクールソーシャルワーカーやインターネット検索、他団体との連携により、利用につながりました。学習会に興味を持つ理由は、不登校状態からの高校受験や通信制高校への進学、高卒認定試験の受験、学校への復学をめざすなど、前向きな気持ちになっている人が利用しました。 ②文化芸術ゼミのプログラム化：ワークショップやゼミを開催し、10代から20歳前後の不登校や若年無業の子ども若者が参加しました。回を追うごとに前向きな発言が増え、子どもたち主体の「もも祭」を開催しました。このような発表の場となるマイルストーンを設定することにより、主体的な姿勢が増えていくと感じました。</p>		
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>①学習会では高校休学・中退、不登校経験者、発達障害の子ども・若者が大学生や社会人のスタッフ・ボランティアとの関係性の構築ができました。このような関係構築が、子どもたちの中退予防、困りごとの早期発見につながったと思われます。学習会と食事会を合わせた開催は、勉強に苦手意識が強い子どもが、自主的に準備や片付けに参加するなど多面的に見るとよいところ見られる機会となりました。これらには、ストレスや不安の軽減の作用も見られました。②文化芸術ゼミは自分の思いを言葉にすることが苦手な子どもも、作品づくりを通して自己表現の場となりました。どの活動に参加するかを子ども自身が選択し、自分の意志で小さく始めてみる環境が効果的でした。</p>		<p>①高校休学中や中退している若者は学習の目標を見出す難しさがありました。進路や将来の希望を描くサポートが必要です。また、友人関係や恋人関係など親密な他者との関係性が日常の中で大きな要素となりうる思春期の若者たちは、対人関係のもつれにより、心身の調子や生活リズムを崩してしまうケースも見られました。②学習会では一人ひとりの学習進度や未学習の範囲などがばらばらであるため、必要な学習教材の準備や授業方法について話し合う機会が多く見られました。個別最適化学習を目指してオンライン学習の導入などを検討しています。③オーバードーズや自殺企図、家出など若者の緊急を要する対応が増えているため、対応できる相談員やコーディネーターの配置と育成が必要であり、今後取り組んでいきます。</p>		<p>この1年間の活動を通じて 多様な困難を持つ子ども若者20名に出会い、学習や食事、文化的体験を通して、高校受験合格、中退予防、中退者へのアプローチ を達成しました。</p>
		<p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>		
		<p>不登校の中学生が登校するようになったこと、発達障害のある高校生が他者に相談できたこと高校を中退した若者が高卒認定試験に向けて学習を始めたことが挙げられます。受益者の9割が前向きな変化があったと回答しました。</p>		